

## 【点検・評価委員会委員からの総括的意見】

令和4年度も前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を少なからず受けることとなりました。また、ロシアによるウクライナ侵攻等を背景とした物価高騰等もあり、事業を計画どおり推進するのは大変なことであったと思います。そのような中、新規7事業を含む75事業を推進できたことは評価できることです。

新規事業の中にはカーボンニュートラルの実現に向けた事業もあり、待ったなしの今日的課題に真摯に取り組む姿勢も感じられました。“未来を担う人づくり”の基本理念の下、第2次厚木市教育振興基本計画が着実に進んでいることも分かりました。

学校教育においては、コミュニティ・スクールがスタートして5年が経過した状況を充実期として捉え、地域学校協働活動事業を拡充するなど学校と地域との連携強化を図った取組も見られました。これは、子どもたちの学びを広げ、学校の働き方改革や不登校児童・生徒の減少、保護者支援にもつながる今後の学校運営を左右する大変期待できるものと感じました。

また、本市にはインクルーシブ教育やインターナショナルセーフスクールで全国的に注目されている学校もあり、これら先進校の取組が更に市内の学校に広まることを期待したいです。

社会教育においては、これまでのコロナ禍の経験をいかし、市民が待ち望んでいた講座やスポーツイベントの多くが実施されたことは大変喜ばしいことです。また、公民館、図書館、郷土博物館といった施設が改めて市民の生涯学習の拠点であることを強く感じました。

施設の改修等のハード面においては、学校教育、社会教育ともに多くの費用が掛かりますが、財源確保に努めながら計画的に進められていました。

委員からは、人材確保の課題や事業の市民に対する周知不足といった様々な指摘もありましたが、その多くは、事業の指標に関することでした。指標としての妥当性はどうか、またその数値の根拠はどこからくるのか。それらは、事業を点検、評価する上で明確にすべき課題であると考えます。

こういった指摘に対し真摯に向き合うとともに、学校、地域、市民の声に広く耳を傾けながら積極的に事業を展開し、子どもたちのため、市民のために引き続き教育環境の更なる充実を目指してほしいと切に願います。